

教育目標		心身ともにたくましく感性豊かに生きる子を育む										
重点目標		学力の向上・豊かな心の育成・健康で安全な生活作り・教職員の業務改善(子ども向き合う時間の確保)・学校運営協議会の充実										
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価					
基礎・基本の徹底と授業改善	基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。	・国語・算数の学習を朝のチャレンジタイムとして実施する。 ・朝学習の時間に読書や本の読みかきせを取り入れる。 ・市内発表に向け、学年別に生活科・理科を中心に授業研究をする。講師の先生に指導助言を受け、研究を深め、発表する。 ・一人一授業を校内で公開し、授業力の向上に役立てる。 ・教職員同士で授業や学級経営について学び合う、あふれcafeを実施する。 ・5.6年の算数で新学習システムを活用し、少数授業を実施する。 ・5.6年で教科担任制による授業を実施する。 ・算数では、授業の初めに学年の実態に応じて音読計算を取り入れ、計算力の向上に役立てる。 ・中、高学年を中心に、1週間程度夏休みに学習会(サマースクール)を行う。 ・PTAの学力委員会と連携し、放課後、児童の学びの場や土曜学習を推進する。 ・学力向上プランを作成する。	・年間を通じて、事前研究会、事後研究会をそれぞれ6回実施する。 ・授業研究とは別に、教職員全員が一授業を校内で公開する。 ・算数の少数指導を実施し、算数の学力を向上させる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすい/楽しい」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「先生は、教える方いろいろな工夫をしている」と回答した割合が90%以上になる。 ・水曜広場を月1回以上開催する。土曜学習を月に1回以上開催する。	A	・読解力テスト、サマースクールはコロナの関係で実施できなかった。 ・チャレンジタイムは朝の会と時間帯が同じなので専科教室への移動等もあり、確保しにくかった。 ・自主研修会(あふれcafe)については、中堅・ベテラン教員を講師とし、ほぼ全員の参加を得て定着した。コロナ対策との兼ね合いで時間の確保が難しくなっていたが、学校全体の研究推進計画の中に位置づけて確実に実施する方針を明確にすることができた。 ・市内指定研究発表では、コロナ対策を講じ、学校全体での協働体制のもと、一定の成果を得ることができた。 ・各種研修会について職員68%が授業に生かしている」と評価した。 ・算数の少数指導を実施し、個々に応じたきめ細やかな指導ができた結果、算数の学力を向上させた。コロナ対策として学力保障の教員が配置され、基礎学力が向上した。 ・児童アンケート結果から「授業はわかりやすい」と回答した割合が89%で、目標を達成できなかった。「先生は、教える方いろいろな工夫をしている」と回答した割合については96%で、目標を達成できた。 ・保護者は「先生はわかりやすい授業に務めている」という点に97%が肯定的に評価している。 ・算数の音読計算の実施に学年によりばらつきがあった。 ・学習習慣や生活習慣が確立されていない児童が一部あった。	・チャレンジタイムは、内容を限定せずに、弾力的に運用できる時間とすることが望ましい。引き続き、週3回朝のチャレンジタイムを行う。短い時間で確実に行うことができるような教材を工夫する。 ・業務改善に取り組んで子ども向き合う時間及び教材研究の時間を確保するとともに、児童が学習に取り組もうとする学級づくりを目指した自主研修会を行っていく。 ・新たな市内指定研究発表に向けて、コロナ対策を講じながら学校全体での協働体制を工夫本校の課題に即したテーマを設定し、さらに授業改善の意識を高める。 ・学力向上プランを具体化し、子どもの実態に沿って学力向上を図る。 ・算数の少数指導では、引き続き具体物を使って、理解の深め、問題の練習量を増やして、学習理解の定着や抽象的な思考力の向上を図る。また、3・4年の中学年の算数の基礎的な内容を着実に理解させることで、高学年につなげていく。 ・算数の音読計算を引き続き実施する。 ・水曜広場や土曜学習の人材と時間を確保し、基礎学力の定着のため内容の充実を図る。 ・家庭の状況に合わせて家庭学習の定着に向けて宿題の出し方、保護者への働きかけを工夫していく。	・タブレット導入が進み、先生方の工夫が児童や保護者にも伝わったのではないかと感じる。 ・子ども達の興味・関心をくすぐる授業をかんがえていただければありがたい。 ・学習・生活習慣については、家庭との連携が必要だと思ふ。 ・宿題のめやす時間を保護者に知らせると、保護者も気にかけやすい。 ・生活科、理科などは、実物などに触れて気づいて理解でき、楽しみながら学べると思う。意欲的な学びにつながるよう、実験や体験を工夫し、増やしていただければありがたい。 ・算数の少数指導を参観で見た。子ども達の理解度を見ながら細やかに説明されていて、引き続き少数人数での授業をしていただきたいと思った。 ・中学年の基礎基本を徹底することで学力差が少なくなるのではないか。少数指導を継続してほしい。					
								・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、読書力の向上を図る。	・読書カードに読書した書名を記入させ、読書を推進する。 ・1ヶ月の読書目標数で12冊を達成する。 ・実験前に予想・仮説を立てさせ、観察・実験の結果を整理し、考察する活動を大切にする。(ノートや学習カードの活用) ・各教科で言語力を高めるために、記述・説明する活動を充実させる。 ・授業のめやすを設定し、授業のふりかえりを書く習慣をつける。 ・ノートや学習カードの活用。 ・学力向上プランの作成。 ・教育のユニバーサルデザイン化を図る。	・貸し出しはコロナにより例年通り行うことはできなかったが、できる範囲で図書利用を行い、成果として、1ヶ月の読書目標数12冊は達成できた。高学年においてはページ数の多い本を読んだため、冊数は伸び悩んだ。 ・貸し出しはできなかったが、家で本を読む習慣づけとして家族(うちとく)の取り組みをした。図書館のイベントを楽しむ児童が多かった。 ・教科学習の中で、多様な方法(コロナ禍での意見交換、個人思考の際の発問等)を工夫したり、子どもたちの表現に対する評価を意識することにより、子どもたちの気づきの質を高めて表現力が育つよう取り組んだ。 ・理科では、問題解決学習を重視して取り組んだ結果、進んで課題解決の方法を考えた。意欲的に学んだりする姿が見られるようになってきた。 ・観察・記録・整理・考察、説明、意思決定等の言語活動を各教科に取り入れていくことができた。	・引き続き図書館の利用を促すようなイベントや図書の紹介をしていく。 ・朝学習に読書タイムを取り入れ、ポランティアによる読み聞かせを行った。 ・学習指導要領でめざす「主体的、対話的で深い学び」に向けて、各教科の学習内容で、学びの履歴や児童の実態を的確に把握するとともに、それに即した具体的な指導計画(教材・教具、発問、学習形態等)をしっかりと立案して授業に臨む。特に1時間の授業の中で、思考したり、表現したり、互いの考えを共有したりすることを通して、学びを深める時間を確保していく。 ・授業の初めに目標を明確化し、それに対応した振り返りを行う。 ・学習マップを作成することにより、子どもも教師も既習事項(他教科、これまでの学年含む)を活かして思考を深めるとともに、見直しをもって学習を進められるようとする。 ・今年度学力学習状況調査から明らかになった課題をもとに、授業の中で根拠をもとに相手に伝わるように表現する力の向上に向けて作成した学力向上プランを実践していく。	・今日のスマホ社会で文字による意思疎通のみに頼る力が、書力がますます必要だと考える。同時に、自らのこぼれ相手に伝えることの重要性も高まっている。読書やアクティブラーニングにより思考力・表現力の向上を期待する。 ・漫画も含めて活字に慣れることで読解力や語彙力は高まっているように思う。 ・新聞、読書、図書館の充実と活用。また最近では多くの人の会話が大変である。ディスカッションの機会を多く持つこともよいのでは。 ・知ったことを相手とわかりやすく伝えるなどの表現が苦手だと感じる。表現する場を確保するなど工夫してほしい。 ・「教育のユニバーサルデザイン化」がどのようなものか、外部にもわかるようしてほしい。 ・何事にも読解力が必要なので、読書の充実をお願いしたい。 ・コロナ禍で会話や多人数との関わりが減る中で、表現力や思考力、判断力の育成がますます重要になっていると感じる。
								・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 ・地域の教材を活用し、より専門的な視点から授業をしていく機会を増やす。 ・地域の教材を活用する。	・業務改善に取り組み、放課後の教材研究の時間を増やす。 ・学校と家庭と連携し、児童のやる気を引き出す。 ・家庭学習の意義や方法を保護者にも伝えていく。 ・教育課程に位置づけて、より効果的な活用方法を講師の方と相談しながら授業を行っていく。	・低学年30分、中学年60分、高学年90分の家庭学習の目標時間を達成する。 ・ICTを月600回以上活用する。 ・自主学習を利用して学習習慣の定着を図る。 ・自主学習において、自分が興味を持って取り組んできたが、振り返りを認め、評価する。	・成果として、ICTを月平均1000回以上活用できた。 ・授業の中でICTを活用することができたと言った職員が90パーセントとなった。また、欠席児童に対して、学習支援などの配慮もタブレットを学習に活用できた。 ・保護者と連携し、家庭学習で繰り返して反復させたことで、教科の基礎的な内容の理解が定着し、できる・わかるが次なる意欲につながっている。 ・家庭での学習時間は、子どもにより個人差が大きく、宿題の出し方や評価の仕方を工夫改善する必要がある。 ・自主学習をする児童は増加傾向である。 ・コロナ対策で児童同士が対話しながらの学習に制限があり思考の広がりがないように感じた。今後、工夫が必要である。 ・学力学習状況調査の結果、教科学習を「好きだ」と肯定的に回答した児童数が少なかった。学習への興味・関心を高める必要がある。 ・生徒指導部会を毎月行い、問題行動報告会を、月1回、職員会議前に実施し、共通理解した。 ・欠席が30日を超える児童は16人だった。登校支援の職員や関係機関との連携を密にしたり、ケース会議によりアプローチを工夫するなどの対策が必要である。 ・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらった」と回答した割合が99%になり、目標を達成できた。	・授業の中で効果的なICTの活用(オンラインを含む)を、職員間で研修することで、活用への意欲を高め、さらに、多くの職員が活用できるようにするための研修を行う。 ・自主学習ノートを取り入れ、学校や家庭での自主的な学習時間の確保を図る。 ・児童の家庭学習や読書に対し、その都度評価し、意欲の持続化につなげる。 ・家庭学習プリント配信システムの活用を図る。 ・子どもたちの興味関心を高める教材や教具を工夫するとともに、体験活動を重視し、地域や専門家など学校外の協力を得ながら学ぶ楽しさを深めさせ意欲を高める。

学校関係者評価総括
・コロナ禍の中で、子ども達にも見える変化、外には見えない変化とさまざまな変化があったと感じる。それは、子どもだけではなく、大人(先生方や保護者)にもあると感じる。そのような中、子ども達のために、日々の生活・授業・行事等、限られた時間の中でさまざまな工夫や努力をしていただいたことに、感謝申し上げます。
・子ども達の学習意欲の向上のために、さらに、体験活動や地域との交流、実験などの実物に触れたり変化を楽しむなどの、わくわくするような学びの方法を工夫していただけたこととありがたい。
・学校に来づらい子どもについて、子ども達の心に寄り添い、子ども達の心を理解していただくこと、また、保護者が安心して相談できるような体制を考えていただく等により、学校が子どもにとって安心できる居場所であるようにしていただけたこと。地域や保護者もできることがあれば協力していきたい。

次年度に向けた重点的な改善点
・学力向上に資する授業改善…根拠をもとに考え(思考力)、意見を他者にわかりやすく伝え(表現力)、互いの意見交流の中からさらなる発見や価値の創造等につなぐ(判断力)。地域人材などを活用したりさまざまな体験活動をカリキュラムに積極的に取り入れ、わくわくする学びを創出する。
・ねらいに応じたタブレットの活用…スクリーンタイムやZOOMなどのアプリをねらいに応じて活用し、対面とオンライン、紙ベースと画面上、体を動かすこととシミュレーションなど、学習のねらいに応じたハイブリッドな学習のあり方について探る。
・どの子にも居場所のある学校…コロナ禍により不安が高まる子どもや保護者の気持ちにより添い、課題を抱えている子どもや保護者が相談しやすい体制を確立する。また、オンラインによる学習方法を実施し、学校と家の居場所や学びをつなぐ。
・学校運営協議会を窓口とし、学校と保護者、地域をつなぎ、子どもの課題や子どもの成長した姿を共有し、連携して子どもを育む。